



スペーススポーツ紀伊周辺地域協議会での協議風景

6月1日、ホテル&リゾート和歌山串本にて行政機関と関係団体らによる「スペーススポーツ紀伊周辺地域協議会」の総会が開かれ、田原地区で建設中の民間ロケット射場で本年度中に予定されている初号機打ち上げの見学客誘致などについて話し合われました。

この協議会は、見学場整備や想定される渋滞、観光事業等に関する意見交換を行う場として令和元年より設けられています。

今回の総会では、射場建設を進めるスペースワン(株)が今夏末までに発射場等が完成する見込みであることを報告。また、同協議会から見学イベントの企画運営を委託されたJTBからは、渋滞を回避する策を含んだ観光プランなどが発表されました。

7月24日(土)には、第3弾となる「宇宙シンポジウムin串本」が同ホテルで開催されます。現在は無料オンライン配信のみ予約可能となっています。この機会にぜひご覧ください。※申込フォーム
(<https://shinsei.pref.wakayama.jp/D91ZUazp>)



檜野崎灯台から臨むロケット打ち上げイメージ図

ロケット打ち上げに向け協議

スペーススポーツ紀伊周辺地域協議会 総会

2名優秀賞受賞 県大会へ 少年メッセージ2021 東牟婁地方予選会

中学生が将来の夢や日頃感じる思いを発表する「少年メッセージ2021」の東牟婁地方予選会が6月5日、串本町文化センターで行われました。

予選会には各学校から推薦された16名が参加。串本からは4名が出場し、藤野遥さん(串本中3年、題名「本当の自分」)、増田歩那さん(串本西中3年、題名「私の夢」)が最高賞にあたる優秀賞に選ばれ、県大会への出場権を得ました。

藤野さんは、弱い自分を見せられないよう「仮面」をつけ社会的に振る舞うなかでの葛藤や気づきを語り、同じように悩む人へ「すべて本当の自分」であることに気づいてほしいと熱弁。増田さんは、盲目のピアニストとの出会いや闘病の末亡くなった祖父との思い出から、将来は新薬を研究する薬剤師として少しでも多くの人を救い、「病気とところを癒したい」と強い思いを語りました。

受賞後、藤野さんは「受賞できて嬉しい。伝えようという思いで発表できた。県大会に向けもっと練習に励みたい」とコメント。増田さんは「受賞できると思わず嬉しかった。県大会では伝えたいことを全力で伝えたい」と話しました。吉田審査委員長は、どの発表も本当に素晴らしかったと講評し、「この経験を今後の学校生活や将来にいかしてほしい」と中学生に声援を送りました。



増田歩那さん

藤野遥さん

串本町消防本部 県ほふく優勝、引揚準優勝 県消防救助技術会

6月1日、第49回和歌山県消防救助技術会が開催され、串本町消防本部のほふく救出チームが優勝、引揚救助チームが準優勝を果たしました。

引揚救助チームは消防救助技術東近畿地区指導会への出場が決定。ほふく救出チームについては、本来なら全国大会への出場となりますが、新型コロナウイルスによる大会の規模縮小のため同指導会後の抽選結果を待つこととなりました。



優勝を果たしたほふく救出チーム



準優勝し指導会への出場権を獲得した引揚救助チーム

ほふく救出チームの川端さんは「1位を獲れたことは嬉しい。選考会で競い合ってきた仲間のおかげで成果を発揮できた。全国優勝を目指したい」と喜びと決意を表現。引揚救助チームの峯園さんは「串本町消防本部から4年ぶりとなる指導会出場は嬉しいが、2位であったことは悔しい。メンバーと勤務署が離れており限られた練習時間となるが、さらに訓練を重ね優勝を狙いたい」と意気込みを話しました。

ゴムボート取扱訓練

西向・古座・田原分団

水難救助訓練実施

夏季に備え体制強化



ゴムボートの取り扱い訓練に励む団員

5月30日、串本町消防本部は串本町消防団に対し水難救助用ゴムボート取扱訓練を実施しました。このゴムボートは、近年自然災害が激甚化傾向にあることから、令和2年度消防団設備整備費補助金を活用して配備されたものです。

参加した串本町消防団の稲田賢団長は「ゴムボート配備により、河川氾濫時の初動対応をより迅速に行うことができる。訓練を重ね、風水害への対応能力の向上を図っていきたい」と話しました。



沈んでいた要救助者(人形)を潜水隊員等が救出

串本町消防署は、6月14日、橋杭海水浴場にて水難事故を想定した救助訓練を行いました。訓練には14名の隊員が参加。2名の男性が溺れたと想定し、通報から出動救出までの救助活動訓練を実施しました。

井本茂串本消防署長は「消防本部の管轄は海や川に面しているため釣りやレジャーが盛ん。今後より訓練に努めていきたい」とし、アウトドア需要が高まる中での救助体制強化の重要性を語りました。